

令和6年度

神戸大学大学院人文学研究科
博士課程後期課程

外国人特別学生進学者追加選考要項

(神戸大学大学院修士課程・前期課程在学者用)

神戸大学大学院

人文学研究科

R6 D 進外追

博士課程後期課程 アドミッション・ポリシー

人文学研究科は博士課程後期課程に次のような学生を求めています。

●人文学研究科博士課程後期課程の求める学生像

1. 人文学諸分野に関心を持ち、既成の価値観にとらわれることなく、自分で問題を発見し、追究していく情熱を持っている人
〔求める要素：思考力・判断力・表現力，主体性・協働性，関心・意欲〕
2. 自ら選んだ専門分野の研究を深め、その学術的展開を行って研究者を志す人
〔求める要素：知識・技能，思考力・判断力・表現力，関心・意欲〕
3. 研究者としての自覚をそなえ、自らの学術研究を学際的かつ国際的な幅広い視野のなかで展開していく意欲を持っている人
〔求める要素：思考力・判断力・表現力，主体性・協働性，関心・意欲〕

1 専攻及び教育研究分野

専攻	コース	教育研究分野
文化構造	今回の追加募集では、文化構造専攻の学生募集は行いません。	
社会動態	史学	日本史学、東洋史学、西洋史学
	知識システム論	心理学、言語学（英語学を含む）、芸術学
	社会文化論	社会学、美術史学、地理学、文化資源論（連携講座）

2 募集人員 若干名

3 出願資格

外国人特別学生として進学を志願できる者は、留学の目的をもって日本に入国した外国人で、次に該当する者としてします。

神戸大学大学院の各研究科において令和6年3月に修士の学位又は専門職学位を取得見込みの者

4 出願期間

令和6年3月1日（金）から令和6年3月4日（月）まで 必着

出願書類の受付は郵送のみとします。なお、直接持参しても受理しません。

郵送に際しての注意事項

- (1) 書留速達郵便とし、封筒表面に「大学院人文学研究科博士課程前期課程入学願書」と朱書き、出願期間内に必着するよう郵送してください。
- (2) 上記出願期間に間に合うよう、検定料は最寄りの郵便局で、別添「郵便局専用払込用紙」を用いて納付してください。

5 出願手続

志願者は、次の書類等を取りそろえ、神戸大学大学院人文学研究科教務学生係に提出してください。

- (1) **進学願書・履歴書・写真票**… 用紙は本研究科で交付します。
- (2) **修士課程又は前期課程修了見込証明書**
- (3) **修士課程又は前期課程の成績証明書**
- (4) **論文2部（コピー可）**… 修士論文又はそれに相当する論文を提出してください。いずれの場合も、併せて提出論文の要旨を日本語で2,000字～4,000字程度にまとめたものを2部添付してください。
(注) 提出論文が外国文の場合、その論文の日本語訳の提出を求められることがあります。
- (5) **研究計画書3部（コピー可）**… 本研究科のホームページからダウンロードした「研究計画書」を使用し、A4版両面印刷で提出してください。*「研究計画書」は

以下の URL からダウンロードできます。

<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/admission/doctor.html>

- (6) 写 真 3 枚… 上半身脱帽正面写し、大きさは縦 4 cm・横 3 cm。出願前 3 か月以内に撮影したものを願書等所定のところに貼付してください。
- (7) 受験票送付用封筒… 定形封筒（長形 3 号縦 23.5 cm・横 12 cm）に速達用郵便切手（344 円）を貼付し、出願者の郵便番号、住所、氏名を記入してください。
- (8) 住 所 票 3 枚… 本研究科交付の用紙に、出願者の郵便番号、住所、氏名を記入してください。

6 入学者選考方法

選考は、口述試験、研究計画書、修士論文（又はそれに相当する論文）及び成績証明書等の結果を総合して行います。

口述試験 令和 6 年 3 月 15 日（金）13:00～

口述試験は個人単位で行い、提出資料を参考に志望理由や進学後の修業計画等について質疑応答を行います。

7 合格者発表

令和 6 年 3 月 21 日（木）10:00（予定）

本研究科ホームページに掲載するとともに、合格者には合格通知書を郵送します。（電話での照会には一切応じられません。）

8 授業料

前期分 267,900 円（令和 5 年度実績）

後期分 267,900 円（令和 5 年度実績）

（在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。）

9 個人情報の取り扱いについて

- (1) 本研究科が保有する個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」等の法令を順守するとともに、「神戸大学の保有する個人情報の管理に関する指針」等に基づき厳密に取扱います。
- (2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入学者の選抜（出願処理、選抜実施）、合格発表、入学手続業務及び今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。
- (3) 出願にあたってお知らせいただいた個人情報は、入学者についてのみ入学後の学生支援関係（健康管理、授業料免除及び奨学金申請等）、修学指導等の教育目的及び授業料等に関する業務並びにこれらに付随する業務を行うために利用します。

10 入試情報開示について

受験者本人（合格者は除きます。）から開示請求があれば、令和6年度入試の個人の試験成績を書留郵便により郵送します。

開示する試験成績は、総合評価（A・B・C）で通知します。

- ① 請求方法 次のものを同封の上、必ず受験者本人が郵送により請求してください。
 - ・令和6年度神戸大学大学院人文学研究科博士課程後期課程追加募集の受験票
 - ・返信用封筒（長形3号 縦23.5cm・横12cm）404円切手貼付，返信先宛名明記）
- ② 請求期間 令和6年5月1日～令和6年6月30日（必着）
- ③ 開示時期 令和6年7月1日以降順次，書留により郵送します。
- ④ 請求先 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
神戸大学大学院人文学研究科教務学生係 TEL 078-803-5595

11 麻しん（はしか）、風しんの感染予防措置

麻しん・風しんのワクチン接種（予防接種）・抗体検査に関する書類の提出について

神戸大学では「麻しん風しん登録制度」を定め、入学後のキャンパス内での麻しん・風しんの流行を防止するため、全ての新生入生に次の①，②，③のいずれかを提出していただいています。

- ① 麻しん・風しんのワクチン接種を、満1歳以降にそれぞれについて2回ずつ受けたことを証明する書類（推奨）
- ② 過去5年以内（平成31(2019)年4月以降）に麻しん・風しんのワクチン接種を、それぞれについて1回ずつ受けたことを証明する書類
- ③ 過去5年以内（平成31(2019)年4月以降）に受けた麻しん・風しんの抗体検査の結果が、「麻しん・風しんの発症を防ぐのに十分な血中抗体価（次頁の表を参照）を有していること」を証明する書類

- * ①，② のワクチンは、麻しん・風しん混合ワクチン（MRワクチン）等の混合ワクチンでもかまいません。
- * ①，② では、接種したワクチンの種類と接種年月日が記載されていることが必要です。
- * 母子手帳等のワクチン接種記録や接種済証も、接種したワクチンの種類と接種年月日が記載されていれば①，②の書類として使用できます。
- * 既往歴（かかったこと）がある場合は、③を提出するか、ワクチン接種を受けて①か②を提出してください。
- * ③ では、次頁の表の血中抗体価の測定方法と測定値が記載され、測定値が同表の判定基準を満たしていることが必要で、血液検査結果票そのものの提出でもかまいません。血中抗体価が不十分な場合には、必要なワクチン接種を受け、①か②を提出してください。
- * ①，②，③の書類の組み合わせ、例えば麻しんについては①，風しんについては③を提出してもかまいません。
- * 麻しん・風しんの血中抗体価が不十分にもかかわらず、病気や体質等やむを得ない事情に

よってワクチン接種を受けられない場合には、その旨を記載した文書（医師による証明書等）を提出してください。

* 上記のいずれの書類も入学試験の可否判定に用いるものではありません。

提出期限：4月入学者は新入生健康診断実施日，10月入学者は10月入学者健康診断実施日
提出先：健康診断会場内 麻疹風疹登録受付

麻疹・風疹の発症を防ぐのに十分な血中抗体価の測定方法と判定基準

区分	測定方法	判定基準	備考
麻疹	IgG-EIA 法	8.0 以上の陽性	3つの測定方法のうち、いずれかで陽性
	PA 法	256 倍以上の陽性	
	NT 法	4 倍以上の陽性	
風疹	HI 法	32 倍以上の陽性	2つの測定方法のうち、いずれかで陽性（HI 法を推奨）
	IgG-EIA 法	8.0 以上の陽性	

- * ワクチン接種歴が条件を満たす場合や追加接種する場合は、抗体検査は不要です。
- * 血中抗体価の測定は、この表の方法によってください。
- * 発症を防ぐのに十分な血中抗体価は、測定方法によって異なります。また、単に抗体陽性とされる値よりは高い値なので注意してください。
- * 医療機関を受診する際には、必要なワクチン接種や抗体検査を受けることができるか、予め確認してください。また、この学生募集要項を医師に提示するなどして必要な証明書を発行してもらってください。

この感染予防措置に関する問い合わせは

神戸大学 保健管理センター TEL 078-803-5245

神戸大学 学務部学生支援課 TEL 078-803-5219

12 注意事項

- (1) 出願手続後は、書類の記載事項等の変更は認められません。
- (2) 検定料及び入学料は、不要です。
- (3) 志望専攻、教育研究分野、受験語学等を願書所定の欄に記入してください。出願書類等に不備がある場合には、受理できないことがあるので出願前によく確認してください。
また、出願書類に不備がある場合等、願書に書かれた電話番号やメールアドレス宛に連絡をすることがあります。これらの確認漏れによる救済措置は行いませんので、ご注意ください。
- (4) 受験に関する詳細については、出願者に配付する「受験者心得」を参照してください。
- (5) 出願後に連絡先について変更が生じた場合は、速やかに連絡してください。
- (6) 受験票は3月8日（金）までに到着するよう本人現住所（連絡先）に郵送します。3月8日（金）を過ぎても到着しないときは、問い合わせてください。

- (7) 障害等があつて、受験上の配慮を必要とする出願者は、出願の1か月前までに申し出て下さい。
- (注) 事前申出は障害等のある方に神戸大学の現状をあらかじめ知っていただき、受験にあたってより良い方法を実現するためのもので、障害等のある方の受験を制限するものではありません。申出の内容によっては対応に時間を要することもありますので、できるだけ早い時期に申し出て下さい。
- (8) 一度受理した出願書類の返却は認めません。
- (9) 合格者の進学手続は令和6年3月下旬の予定です。(日時は、合格者に別途通知します。)

令和5年度 コース，教育研究分野，教員の専門分野

神戸大学大学院人文学研究科
(文化構造専攻)

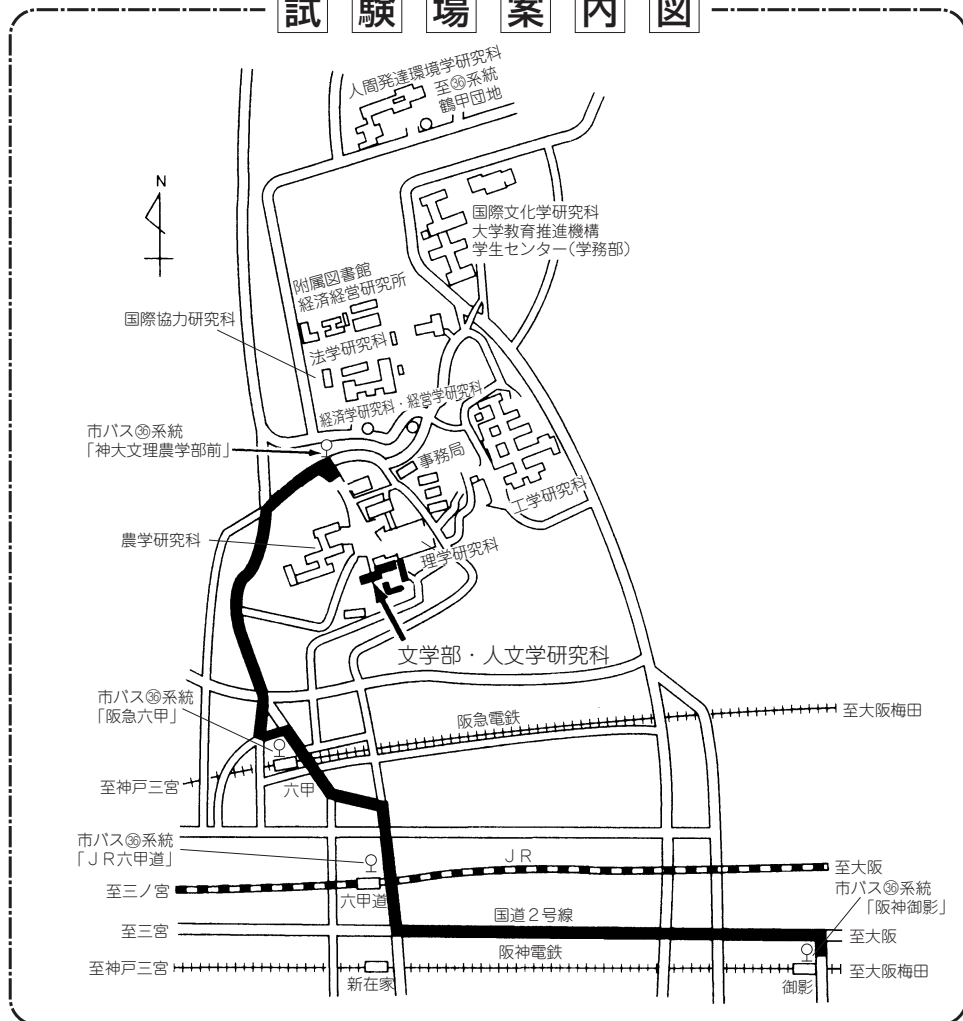
コース		教育研究分野		教員の専門分野	
名称	内容	名称	内容	教員名	研究内容
哲学	<p>哲学コースは、各地域、各時代における哲学・倫理学思想を研究し、その歴史的な特殊性を明らかにするとともに、それらの思想が空間や時間の制約を離れて持ちうる普遍的な意味を探究する。あわせて、この研究によって培われた方法と知見に立って現代における哲学・倫理学思想の可能性を追求し、さらに21世紀において焦眉の課題とされる諸問題に対する解決策を提示することを目指す。また、科学の理論構成や方法を内在的に分析するとともに、科学を成立せしめている論理的かつ文化的な制約を十全に理解することで、その意義と可能性を批判的に分析する。さらに哲学・倫理学以外の専門科学との交流を求め、現代における哲学・倫理学思想の有効性を探究する。</p> <p>哲学コースでは哲学・倫理学全般に対する展望と、哲学的文献を読解するための基本的技術の習得に重点を置くとともに、個別のテーマに即して専門的な教育研究を行う。加えて、現代において哲学・倫理学が担う社会的責務を十分に自覚しながら、現代的な諸問題を具体的に考察する能力を涵養する。</p> <p>以上のような教育研究によって、人類の英知と価値観を学ぶことを通じて培われた洞察力を活かし、科学の発展を踏まえて、現代社会の抱える諸問題の解決へ向けた確に考察できる人を育成する。また、そうした能力を次世代にも継承させる教育能力をもった専門家を養成する。</p>	哲学	<p>哲学コースの特色は、自由闊達な精神と旺盛な批判精神にある。古代ギリシアから現代哲学まで広範かつ多様な研究領域をカバーできる豊富なスタッフを擁するため、個人指導も徹底できる。哲学・倫理学の在籍者全員と全教員が参加する合同演習もあり、修士・博士論文の作成などに大きな効果を発揮している。さらに、「哲学懇話会」は機関誌『愛知』の定期的な刊行などを行っている。修了後は、研究者の道に加え、マスコミ・出版関係をはじめとする一般企業で活躍する学生が増えている。</p>	茶谷 直人	ギリシア哲学・倫理学、および生命医療倫理学
		◇◇◇加藤 憲治	フランス哲学・哲学史	新川 拓哉	現代分析哲学
倫理学	<p>人間と社会の在り方が未曾有の変容を遂げつつある現在、「生き方の学的探求」としての倫理学には、様々な問題の原理的捉え直しと、新たな共生のビジョンを描き出す「倫理創成」が求められている。倫理学分野では、哲学分野とも連携しつつ、古典的な規範倫理学、道徳的概念の分析を行うメタ倫理学、科学技術や医療といった現代の問題に取り組む応用倫理学まで幅広く研究が行われている。また、生命・環境・工学などをめぐる問題に関し、人文学研究科のスタッフ・院生が学際的に取り組む「倫理創成プロジェクト」に参加することも可能である。</p>	倫理学	<p>人間と社会の在り方が未曾有の変容を遂げつつある現在、「生き方の学的探求」としての倫理学には、様々な問題の原理的捉え直しと、新たな共生のビジョンを描き出す「倫理創成」が求められている。倫理学分野では、哲学分野とも連携しつつ、古典的な規範倫理学、道徳的概念の分析を行うメタ倫理学、科学技術や医療といった現代の問題に取り組む応用倫理学まで幅広く研究が行われている。また、生命・環境・工学などをめぐる問題に関し、人文学研究科のスタッフ・院生が学際的に取り組む「倫理創成プロジェクト」に参加することも可能である。</p>	中 真生	現代フランス哲学・倫理学
		安倍 里美	メタ倫理学、生命倫理学	○實平 雅夫	日本語教育・日本文化教育
文学	<p>文学コースは、人類が蓄積してきた文学作品を、テキスト分析の方法を基軸として、民俗学・歴史学・哲学・心理学等の隣接諸学域の成果をとりいれて、広い視野に立って深く研究する能力の涵養をはかる。その研究対象は、古代より近代に至る古典的文学作品から、現代の文学作品にまでわたる。その教育研究を通して、古典的文学作品の価値を現代に再生し、文学という最も普遍的で優れた文化的遺産を将来に継承するとともに、それぞれの文化的背景のもとに生成されつつある現代の文学作品の価値を、異文化圏に向けて発信することで、異文化理解・多文化共生の橋渡しの役割をも担う人材を養成する。</p> <p>本コースは、まず、日本、中国・韓国等のアジア文学、また英・米、独・仏・伊等の西洋文学の各分野について、それぞれの研究領域が築いてきた伝統を踏まえて各領域個別の研究を発展・深化させるために、古典日本語・現代日本語・中国語・韓国語・英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語等の諸言語に関わる語学力の向上を目指す。それとともに、テキスト読解のスキルや、哲学・文学理論の応用能力等の修得を行い、人文学の基盤的な学問としての文学研究を強化する。それに加えて、各国文学を横断的に教育研究することによって、多角的な視野を持った文学研究を目指す。所属の学生には、各自の専門的研究を深化させるとともに、倫理創成プロジェクト等が提供する研究科共通科目を履修させることによって、現代社会の諸問題を広い視野から考察する方法を学ばせ、文学研究を知識基盤社会の形成に応用する能力をも涵養する。</p> <p>以上のような教育研究方法によって、文学コースでは、古典テキスト研究能力と確かな語学力に基づく分析能力により、文学的遺産を将来に継承できる人材・文化交流の架け橋となる人材を養成する。</p>	国文学	<p>日本の言語文化の特質について、また日本文化を通して見た人間の普遍性について研究する。前期課程ではテキスト解析能力の鍛錬等、後期課程では高度な研究能力の涵養等を行う。</p> <p>古典文学、近世・近代文学、国語学、日本語教育学の各分野に合わせて5名の教員が配置されており、学生の多種多様な研究テーマや進路志向に対応できるよう、国語国文学の諸領域をカバーしている。教員・在学生・卒業生による学会「神戸大学文学部国語国文学会」の機関誌『国文叢』、院生の自主運営雑誌『国文学研究ノート』等、研究発表の場も豊富である。</p>	樋口 大祐	日本中世文学
		石山 裕慈	日本語史	梶尾 文武	日本近現代文学
		有澤 知世	日本近世文学	濱田 麻矢	中国現代文学
		○朴 鐘祐	日韓比較文学	○朴 鐘祐	日韓比較文学
		早川 太基	中国古典文学	早川 太基	中国古典文学
		◎△劉 萍	中国古典文献学	◎△劉 萍	中国古典文献学
		山本 秀行	現代アメリカ小説・演劇	山本 秀行	現代アメリカ小説・演劇
		芦津 かおり	シェイクスピア・イギリス演劇	芦津 かおり	シェイクスピア・イギリス演劇
		奥村 沙矢香	20世紀イギリス小説	奥村 沙矢香	20世紀イギリス小説
		◇△大住 めぐみ	イギリス詩	◇△大住 めぐみ	イギリス詩
平川 和	現代アメリカ小説	平川 和	現代アメリカ小説		
ヨーロッパ文学	<p>ドイツ文学、フランス文学、イタリア文学からなるヨーロッパ文学では、それぞれの言語や文化に対する深い理解をめざした講義や研究指導が行われる。授業では、テキストの正確な理解と分析をもとに、テキストを作り上げている要因を様々な方法論を駆使しつつ、多角的に考察する。修士論文や博士論文作成の指導は、少人数ゼミや密接な個別面談を通じて、きめ細かく行う。</p>	◇◇◇増本 浩子	現代ドイツ文学・スイス文化論	◇◇◇増本 浩子	現代ドイツ文学・スイス文化論
		○河合 成雄	15-16世紀イタリア思想・文学	○河合 成雄	15-16世紀イタリア思想・文学
		中畑 寛之	現代フランス文学・思想	中畑 寛之	現代フランス文学・思想
		久山 雄甫	ドイツ思想史・日欧文化比較論	久山 雄甫	ドイツ思想史・日欧文化比較論
廣田 郷士	フランス語圏文学・思想	廣田 郷士	フランス語圏文学・思想		

(社会動態専攻)

コース		教育研究分野		教員の専門分野	
名称	内容	名称	内容	教員名	研究内容
史学	<p>史学コースは、人類が培ってきた歴史学の方法を用いて歴史文化の発展に寄与することを共通の課題にしている。その上で、本コースでは、歴史学研究をいっそう展開させるために、文献研究のみならず、フィールドワーク手法を用いた教育研究を行うことを重視している。すなわち日本列島・アジア・欧米における地域社会をフィールドとし、それぞれの地域に固有の社会の歴史的動態を、実地調査、史料保存、聞き取り調査などを通じて明らかにする。</p> <p>また日本列島における各地域・時代の言語、西欧におけるフランス語・ラテン語など、アジアにおける中国語・アラビア語などの諸語を、コースの所属学生が、自らの研究領域の広がりに応じて習得し、用いる。それによって各フィールドにおける高度な学術調査をおこない、また取り扱いに習熟を要する文書・写本史料などを扱える能力を養成する。さらにフィールド的手法を充実させ、歴史研究の成果を社会に還元するために、地域連携センター、海港都市研究センターと協力し、地域の歴史文化をはぐくむ史料論と方法論、歴史博物館や文書館の運営論について深化をはかる。</p> <p>このように共通の方法論を修得することにより、日本史、東洋史、西洋史という各領域の研究を深化させるとともに、これらの既存の研究領域を超えて、人間の歴史を総合的に把握し、その史的ダイナミズムを解明することを可能にする。これによって、現代社会において、グローバルな領域やローカルな領域で相互に関係しながら展開する諸現象の客観的な理解をなさしめるものである。</p> <p>以上のような教育研究によって史学コースでは、文献研究とフィールドワーク研究という実証的分析手法をもとに、過去から現代に至る人間行動を歴史的に理解し、日本および国際社会における歴史文化の形成に主体的に対応する人材を養成する。</p>	日本史学	<p>日本史学は、古代から現代にいたる、日本列島上に展開した社会と国家を、構造的、動的に把握することを目的とする学問である。そのためには、資史料の分析読解能力、研究史に対する深い理解、日本史学の問題を歴史学全体の中で考える広い視野、が必要である。日本史学では様々な演習を通じてこれらの能力を養成に努めるとともに、具体的なフィールドを通じて歴史像を構築する営みを重視し、地域歴史遺産を保全し、活用する能力を高める実習の充実をはかっている。</p>	◇◇奥村 弘 ◇◇◇市澤 哲 古市 晃 吉川 圭太	日本近代地域社会形成史、歴史資料論 日本中世政治・社会史 日本古代史、王権論 日本近現代史、社会運動史
		東洋史学	<p>東洋史学の研究対象は、広くユーラシア大陸を見据えるものであるが、とりわけ中華世界とイスラム世界を二本柱としたアプローチを試みている。学生は各自が選択する言語の写本、文書、档案史料等の原典を読みこなし、分析する能力をより一層高めることによって、異文化の多元的な刺激を受けつつ視野を広め、歴史学のスキルを身につけることが期待される。</p>	◇緒形 康 真下 裕之 伊藤 隆郎 村井 恭子	中国近現代史、中国思想史 南アジア史、イスラーム史 アラブ史、イスラーム学 中国古代史、古代東アジア国際関係史
知識シーム論	<p>知識システム論コースは、人間の知識をシステムとして理解するために、言語を含む知的活動、感性、創造性、対人関係のような、人間に固有の高次機能の解明に取り組む。現在、知性を背後で支える必須の要件が感性や感情であるという認識が深まっている。このような知識システムの複合性を解きほぐすためには、伝統的に芸術学の分野とされてきた領域を含めた、新しいタイプの教育研究プログラムが必要不可欠である。さらに、情報科学や脳科学のような隣接科学と協同することにより、知識システム全般について総合的理解を有した人材を育成する。</p> <p>そのため、心と行動の特性については、心理学実験、社会調査、行動観察のような方法を用いて、感覚や運動や思考や言語のような個人の行動メカニズム、対人関係や集団活動や文化のような複数の人間の行動メカニズムについて、実証性を重んじた教育研究をおこなう。言語現象については、音声、形態、文法、意味、語用の各側面について一般化をおこない、理論的モデルを構築することによって、自然言語の全体像を組み立てる。感性的経験については、芸術の生産と受容のシステムについての研究と教育を行い、感性や感情という知識システムの深層にある部分を解明する。</p> <p>以上の教育プログラムを通して本コースでは、言語を主とする知的活動や、行動・知性を背後で支える感情・感性を、伝統的人文学の範囲を超えた科学的視点から理解し、新たな人間観の形成に寄与する人材を養成する。</p>	西洋史学	<p>西洋史学には4名の専任教員が配置されており、古代から現代にいたるまで、それぞれの時代について専門的に掘り下げて研究を行うことが可能である。いずれの時代においても、研究史的的確な把握と、自己の研究テーマをより広い問題関心や研究動向の中に位置づける幅広い知識、一次史料の読解が重要であるが、それらの習得を目指して自主勉強会、院生による読書会などが行われている。近現代においてはアメリカ、アジア、日本も含めた国際的相互関係の把握にも努めている。</p>	高田 京比子 小山 啓子 佐藤 昇 藤澤 潤	中世イタリア・地中海史 近世フランス史 古代ギリシア史 冷戦史、現代ドイツ・東欧・ロシア史
		心理学	<p>心理学では、感覚、知覚、運動、学習、記憶、言語、発達、社会的行動などの人間行動と、その背景にある心理を、観察、実験、調査を通じて実証的に研究している。博士前期課程で修士論文を書いた学生は、後期課程で研究を続け専門研究者として活躍したり、前期課程修了時に就職し社会に出て活躍したりしている。人材育成にあたっては、研究成果の対外発信をとりわけ重視しており、研究成果を論文にまとめて学術誌に掲載することを前期課程から奨励し、後期課程修了までに複数の論文を国内外の学術誌に掲載するよう指導している。</p>	言語学	<p>言語は人間の本質に関わる重要な現象である。この言語が、どのような構造を持ち、どのような機能を果たし、どのように習得され使われているのかを研究するのが経験科学としての言語学である。言語学には、日本語、英語など個別言語の研究とともに、音韻論、文法論、意味論、さらに、応用言語学やフィールド言語学までの幅広い分野が含まれる。理論的には生成文法や認知言語学などのいくつかのアプローチがある。神戸大学の言語学のプログラムはこれらの幅広い分野、理論をカバーする指導・研究体制をとっている。</p>
留學生担当		芸術学	<p>現代における芸術文化領域の多様化は、また人間の感性的経験の多様化でもある。本研究分野は、こうした多様化する芸術文化について、伝統的な学問研究方法をふまえた上で、新たな学問の地平を切り開き、来べき芸術表現の理論的基礎づけを行うとともに広範な視聴覚文化の包括的研究をめざす。具体的には、芸術の各ジャンルの成立の通時的・共時的状況、素材と構成・内容と形式の相互関係、新たなメディアによる芸術形態や芸術編成の変化等を扱う。</p>	◇◇◇岸本 秀樹 田中 真一 ◇◇◇リチャードハリソン 澤田 治	統語論、語彙意味論 音韻論、音声学 教育学、日本語教育 意味論、語用論
		社会学	<p>家族、農村、地域社会、都市といったコミュニティが構成する社会の基層構造を、日本、アジア、欧米の比較文化研究を通じて明らかにする。また、アソシエーション、ネットワーク、個人の創発的活動を多様に包含する現代社会が、グローバルな交流と地域的な固有性の多面的な動きのなかで形成していく新しい文化価値のあり方を解明する。変動する現代社会の先端的諸現象に積極的にアプローチするとともに、近代が継承してきた社会理論への深い考究とその再構築に向けての創造的理論活動を推進する。</p>	長坂 一郎 大橋 完太郎 小寺 里枝	デザイン理論 西洋近・現代の美学および芸術学 西洋の芸術史・芸術理論
留學生担当		美術史学	<p>美術史学は、人類の歴史的遺産として今日まで継承され、なお創造され続けている美術作品に対して、様式の分析や図像の解釈、制作過程の解明といったアプローチを行い、それらに関わる人間の営みを明らかにする学問である。地域・時代・民族による多種多様な美術の諸相の独自性を検証し、受容再生のコンテクストに基づく実証的な方法論を展開する。そのためには多くの美術作品にじかにふれることが重要であるが、本大学院では、美術館・博物館と密接に協力し、現場を重視した実践的な教育研究を行っている。</p>	白鳥 義彦 平井 晶子 佐々木 祐 ○黒田 千晴 梅村 麦生	フランスを中心とする社会学 家族を中心とする経験社会学、社会人口論 地域社会学、中南米社会研究 東アジア諸国の国際高等教育政策 理論社会学、社会学説史
		地理学	<p>地理学は「空間」に関わる事象全般を研究対象とする間口の広い学問であるが、本研究分野はそのなかでも歴史地理学、文化・社会地理学に焦点をあてている。風景／景観やそれらが描かれた絵図や地図、場所感覚や地域アイデンティティなど生活空間における社会集団の地理的経験および文書・統計・地理情報などを対象とし、そこから様々な空間的課題を読み解いていくのである。院生の主体的なテーマおよびフィールド設定を尊重しつつ、理論・方法論的な潮流を踏まえ、フィールドワークを重視した質の高い博士論文を完成できるよう指導を行う。</p>	岩井 恭二 (客員) 谷口 耕生 (客員)	日本古代・中世の仏教彫刻史研究 日本古代・中世の仏教絵画史研究
留學生担当		連携講座(文化資源論)	<p>文化遺産の重要性に鑑み、文化財学・文化資源学に関する実証的・応用的な教育研究を行う。大和文華館、奈良国立博物館と連携し、実際の博物館運営や文化財保存方法を学ばせる。これによって、情報、人材のネットワークを構築できる学識の幅広さと応用力のある人材を養成する。博物館資料論は博物館における展示企画のための資料の収集法や調査法と、明治の古社寺保存法以来の資料の蓄積と整理法を学ぶ。レントゲン撮影や放射線分析などの最先端の科学的調査法をも合わせて修得する。文化資源保全論では文化財の概念とその修復保存法を伝統的な手法から現代的な手法までを实地演習を交えて学習する。また文化財保護法の歴史と実務を学ぶ。</p> <p>美術文化財論では我国の二千有余年の長い歴史の中で培われた有形文化財の歴史と日本固有の表現を、アジア各地の有形文化財との比較検討を通して研究し、各地の調査現場に向かい、実物の調査を交えたりして体験的に研究方法論を確立する。</p>	◇◇岡野 靖子	第二言語習得、日本語教育

備考 ○印はグローバル教育センター所属教員を示す。
◇印は令和6年3月31日付け退職教員を示す。
◇◇印は令和7年3月31日付け退職教員を示す。
◇◇◇印は令和8年3月31日付け退職教員を示す。
△印は特任又は特命教員を示す。
◎印は令和6年9月30日付け退職教員を示す。

試験場案内図



◎阪神「御影」駅, JR「六甲道」駅又は阪急「六甲」駅から, 神戸市バス③⑥系統「鶴甲団地」又は「鶴甲3丁目」行を利用し, 「神大文理農学部前」で下車。所要時間はそれぞれ約25分, 約10分, 約7分。徒歩の場合は阪急「六甲」駅から約15分。

令和5年11月

神戸大学大学院人文学研究科

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
電話 (078) 803-5595